九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

ANALYSIS OF HOUSEHOLD’S BEHAVIOR AND PREFERENCE TOWARD SUSTAINABLE MUNICIPAL ORGANIC WASTE MANAGEMENT IN HOI AN, VIETNAM

レィ，ティ，タン，ロアン

https://hdl.handle.net/2324/1866360

出版情報：九州大学，2017，博士（農学），課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏　　名	レィ ティ タン ロアン Le Thi Thanh Loan
論　文　名	ANALYSIS OF HOUSEHOLD'S BEHAVIOR AND PREFERENCE TOWARD SUSTAINABLE MUNICIPAL ORGANIC WASTE MANAGEMENT IN HOI AN, VIETNAM （ベトナム・ホイアン市における有機姓廃棄物の持続的管理に向けた住民の行動と選好に関する研究）
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　矢部　光保 副　査　　九州大学　　教授　　伊東　正一 副　査　　九州大学　　教授　　南石　晃明 副　査　　九州大学　　准教授　髙橋　義文

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

都市から発生する有機性廃棄物は途上国においても深刻な社会問題である。他方、有機性廃棄物には有用な肥料成分が豊富に含まれている。それゆえ、有機性廃棄物の分別回収と有効利用に関するシステム構築は、重要であるものの、途上国における成功事例は殆どない。しかしながら、ベトナム・ホイアン市においては、有機性廃棄物の分別回収とその堆肥化が行われてきている。そこで、本研究においては、有機性廃棄物の分別と利用に関する市民の意識と行動について、構造方程式モデル（SEM）、選択実験（CM）、順序ロジットモデルを用いて分析し、その成功要因を明らかにするものである。

第一に、SEM による市民意識の構造分析から、家庭レベルでの有機性廃棄物の分別において重要な心理的要因としては、道徳規範、態度、状況が挙げられ、さらに制度に対する信頼もシステムが有効に機能するために大きな役割を果たすことが明らかになった。第二に、CE を用いて、より有効な分別回収システムについて分析した。その結果、回収頻度と回収時間の設定、分別回収の案内が、有機性廃棄物の分別・再利用に向けて重要な要因であることが明らかになった。第三に、さらなる有機性廃棄物の有効利用に向けて、ホイアン市における家庭レベルでの生ゴミの有効活用の条件について検討した。サンプルの 64%が生ゴミを家庭で堆肥などに有効活用していた。ロジット分析の結果から、婦人会組織、家庭菜園クラブ、堆肥の作り方ガイド、回収作業への理解促進が、生ゴミの堆肥化に向け重要な役割を果たすことが明らかになった。第四に、有機性廃棄物のリサイクルの推進に向け、そのような活動を市民がとるための条件を、まず、生ゴミの堆肥化を行うか否かに与える要因を分析し、次に、堆肥化を行なっている人に対しては活動レベルに影響を及ぼす要因を分析した。その結果、堆肥体験プログラムの参加は、堆肥化を行うか否かには影響を与えるが、活動レベルには影響を与えないこと、また、環境意識の深さが活動レベルに強く影響を与えることが明らかになった。

以上、本研究は、最新の分析手法を用いて、ベトナム・ホイアン市の市民を対象に、有機性廃棄物の分別システム構築と家庭レベルでのリサイクルに向けて重要な、社会的、心理的、制度的要因を明らかにするなど、今後の途上国における持続可能な社会のシステム構築に向けて、重要な貢献が期待できる学術的価値の高い研究と言える。よって、本研究は博士（農学）の学位に値すると認める。